

## あ・と・が・き

日高の軽種馬育成調教場では今年も利用者の方々の要望を受け、7~8月の間、開場時間を1時間早めるサマータイムを実施して好評でした。また、屋内直線馬場の南北旋回場では路盤材が経年劣化等により減少してきましたので、9月にウッドチップの補充を実施して安全性の確保に努めました。

当センター研修生も入講して半年が経ち、基礎レベルから上級レベルへとステップアップの時期となりました。9~10月にかけてJRA育成馬での馴致実習を実施し、1歳馬の馴致の難しさを痛感する反面、思いどおりにいった時の達成感を味わう日々を送っております。また、今年も8月に日高の研修施設で体験入学を実施、7月末の東京競馬場での「牧場で働こうフェア」での研修紹介と併せ、人材確保にも努めているところです。次期研修生の応募の締切は10月15日です、多数の応募をお待ちしております。

今年の日高は一番乾草の収穫調製時期の天候が不順であったため、刈り遅れや調製中の降雨による品質の低下等が予想されます。BTCの牧草分析事業(無料)を活用して、給与する乾草の成分を把握し、適切な飼料給与設計にお役立て下さい。(Y.H.)

「たづな」欄には財団法人日本生物科学研究所常務理事・所長の布谷鉄夫先生に「口蹄疫の再発で考える」というテーマで執筆していただきました。口蹄疫はわが国では2000年にも宮崎と北海道で92年ぶりに発生しました。今春、宮崎での勃発で甚大な被害を受けた方々に心から同情いたします。海外には汚染地域があり、国際交流の進展と防疫は表裏一体にあることを再認識させられました。

「調査・研究」では、BTCで運営管理している日高育成総合施設の調教場においてみられる後期育成馬の四肢の骨折発生状況について疫学的調査を行った成績をまとめた内容です。若馬の運動器障害の発生予防に役立つものと思います。「やさしい育成技術」はシリーズで掲載していますが、今回は子馬の管理法のうち放牧と離乳についてJRA日高育成牧場の頃末専門役に海外での経験を含めて解説していただきました。若馬の初期育成や離乳などの飼養管理技術向上に活用していただければと思います。

「海外の馬最新情報」では、喉頭部の内視鏡検査による評価および馬の眼疾患の超音波検査による調査の2編を紹介しました。軽種馬の臨床技術の向上につながるものと思います。「馬にみられる病気」では筋組織と筋疾患について連載していますが、今号では馬に発生のみられる各種筋疾患について解説しました。若馬の運動器障害防止の参考になれば幸いです。(T.Y.)